

【島根県海岸保全気候変動検討委員会 第3回】議事要旨

日 時 : 令和6年7月23日(火) 14:00~16:00

場 所 : サンラポーむらくも 祥雲の間

出席者 : 河原委員長、森委員、黒岩委員、笠井委員、嘉藤委員

- 議 事 :
- (1) 本委員会での検討事項とスケジュール
 - (2) 第1,2回委員会意見への対応
 - (3) 気候変動による砂浜への影響検討
 - (4) 気候変動を踏まえた計画外力の検討の概要
 - (5) 気候変動を踏まえた潮位の検討
 - (6) 気候変動を踏まえた潮位偏差の検討
 - (7) 気候変動を踏まえた波浪の検討
 - (8) 気候変動を踏まえた計画外力の設定(案)

■主な意見等

- 想定台風(2004年台風15号と1991年台風19号)について、似たような経路が実績でどの程度あったか確認したほうがよい。(説明資料 p.14)
- 海面上昇による汀線後退量について、算定に用いた海面上昇量がわかるように記載すること。また、算定に用いたIPCCの海面上昇量の予測には幅があるので、予測の幅に対応した結果を整理したほうがよい。(説明資料 pp.16~30)
- 「代表海岸」を選定する際には、気候変動で将来の波向が変化することにより沿岸漂砂の傾向が変化する可能性があるため、構造物がある海岸やポケットビーチなどには注意されたい。(説明資料 p.9)
- 海面上昇量については、今後の海岸保全基本計画の改定を見据えて、10年程度間隔のデータ・数値を整理しておいたほうがよい。(説明資料 p.37)
- 高潮推算結果について、観測値がある地点については推算結果と併記したほうがよい。(説明資料 pp.50~59)
- 潮位偏差の変化率について、表1では島根沿岸と隠岐沿岸の平均値を設定している。最大値を設定した場合についても確認したほうがよい。(説明資料 p.63)
- 設計沖波(気候変動)の設定について、設計沖波では台風の強度が強まる影響を考慮しても波高が卓越するのは冬季風浪であった旨の考察を追記したほうがよい。(説明資料 p.89)
- 計画外力の設定(案)について、気候変動による変化量を表示したほうがよい。また、防護水準の設定については、予測自体に幅があることから、提示した計画外力については5cmや10cm幅に切り上げる等が考えられる。(説明資料 p.91)
- 朔望平均満潮位の算出時期について、港湾や漁港の設計に用いることも想定すると、うちあげ高を除く朔望平均満潮位と潮位偏差の合計値を基にした検討を追加したほうがよい。(説明資料 p.92)